

水産の窓

黒潮系暖水が波及し、前月に比べて冷水の影響が弱まった 22年-No.6

(平成22年5月海洋観測結果及び今後の見通し)

平成22年5月18日
茨城県水産試験場

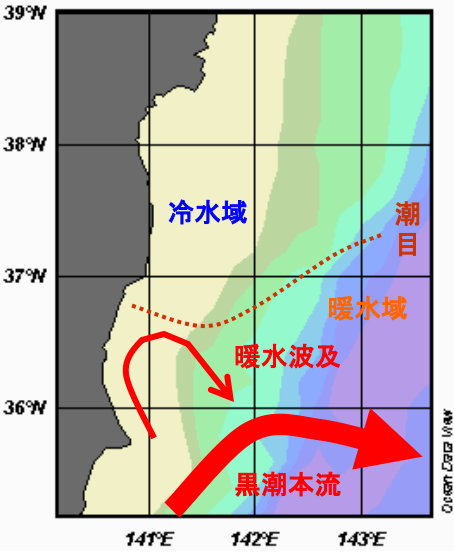


図1 海況の概要

今月の概況

今月の海況の概要は図1の通りです。5月中旬現在、常磐北部海域に冷水が広く分布しており、本県北部海域に達しています。一方で、本県南部海域を中心に暖水が分布しています。黒潮は房総半島からやや離岸して東方へ流去しています。

平成22年5月10日～14日に調査船「ときわ」により海洋観測を実施しました。水深100mから見た本県海域の海況は以下のとおりです。

※水深100mは海洋構造の把握に適していると考えられています。

※図の黒点は観測点です。

①水温は5～16℃台となりました(図2)。前月と比べると、大洗から鹿島沖を中心にして著しく昇温しました(図3)。また、平年と比べると会瀬や犬吠埼沖で「低め」で、大洗や鹿島沖で「高め」となりました(図4)。

②塩分は33.3～34.6PSU台の濃度が分布し、34.0PSU以上の濃度が分布しました(図5)。

その他の特徴は以下のとおりです。

③水温を鉛直的に見ると、北部海域で3～18℃台(図6)、南部海域で5～20℃台が分布しました(図7)。前月と比べると、大洗や鹿島沖を中心にして最大で12℃と著しく昇温しました。また、平年と比べると会瀬や犬吠埼沖で「低め～平年並み」となったのに対し(図8)、大洗や鹿島沖で「低め～高め」となりました(図9)。大洗や鹿島沖で前月に比べて著しく昇温したことや、平年に比べて高めとなったのは、前月に黒潮の流路変動が発生して、親潮系冷水が分布した海域に黒潮系暖水が波及したためです。会瀬や犬吠埼沖で平年に比べて低めであるのは、会瀬沖では親潮系冷水が依然として分布していることや、犬吠埼沖では黒潮の流路がみられないためです。

④会瀬沖は逆潮が卓越しました。一方で、その南の海域には時計回りの渦が見られました(図10)。

今後の見通し(1ヶ月程度)

・金華山から本県北部海域にかけて冷水が広く分布しています。今後も北部海域を中心に冷水が波及するでしょう。

・黒潮は蛇行部が東進して、房総半島沖で流路変動すると予測されます。この影響により沿岸方向に黒潮系暖水が強く波及してくる可能性があります。

・水温を平年と比べると概ね北部海域で「低め～平年並み」、南部海域で「平年並み～高め」で推移するでしょう。ただし、黒潮の流路変動時には、水温の変化が大きくなるでしょう。

(海洋漁業部 小日向)

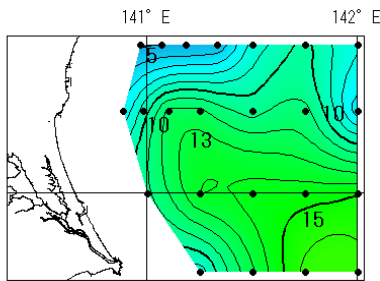


図2 100m深水温(°C)

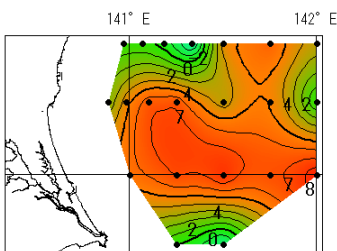


図3 100m深水温前月差(°C)

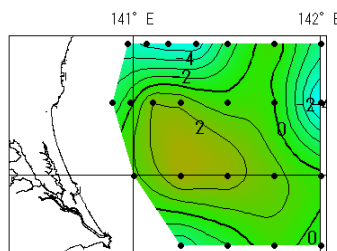


図4 100m深水温偏差(°C)

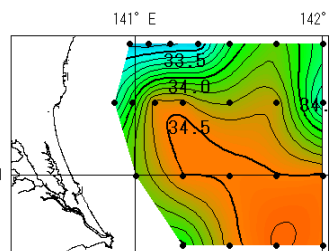


図5 100m深塩分(PSU)

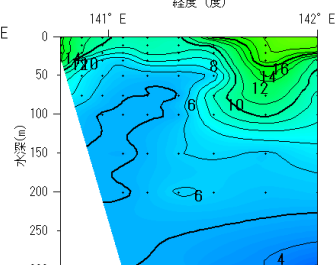


図6 会瀬沖鉛直水温(°C)

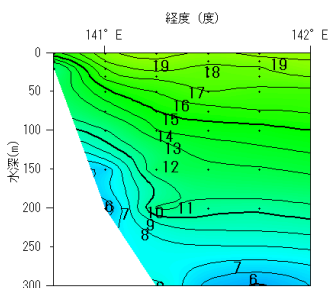


図7 鹿島沖鉛直水温(°C)

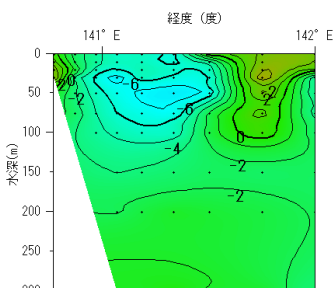


図8 会瀬沖鉛直水温偏差(°C)

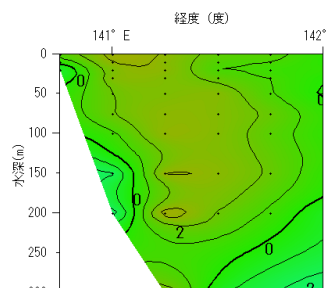


図9 鹿島沖鉛直水温偏差(°C)

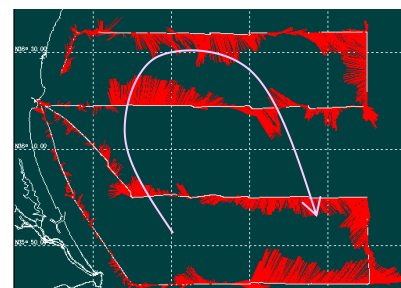


図10 本県海域の流向流速(10m)

海洋観測カウンター図(等値線図)を水産試験場ホームページに掲載しています。ご覧になるには「茨城県水産試験場のホームページ」→「海洋漁業部のページ」→「海洋観測カウンター図」の順番でアクセスして下さい。